

第2弾!

GIGAスクール構想に対応 『デジタル版美術資料』で何が変わる?

前号に続き、『デジタル版美術資料』の活用により美術の授業がどう変わるのか、監修者の横田学先生から解説していただきます。



よこ た まなぶ
横田 学 先生 プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002～2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育政策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。

Q.1 『デジタル版美術資料』には便利な機能がたくさんあるようですが、授業ではまず、どのようなことから始められるのでしょうか。

A 授業の際に「こんな指導が出来たら～」「こんなことを生徒にやらせてみたい」と考えておられるのは、どのようなことでしょうか。

- 参考作品を電子黒板・プロジェクタなどを使って大きな画面で表示したい
 - 制作手順や技法を動画を使って説明したい
 - 机間指導など、個々の生徒に応じて必要な参考資料を示したい
- その際、デジタル版ならではの機能をまず試してください。先生方も生徒も、使い慣れてくると活用の幅はどんどん広がります。

ワークシートに沿って授業展開してみようかな…



道具の使い方の説明は動画を使ってみようかな…

Q.2 授業の流れに沿った具体的な事例をひとつ教えてください。

A それでは、多くの学校で実践されている、人物を対象とした絵画表現の指導を例に説明したいと思います。

- 人物を対象とした絵画では、
- 身近な人の特徴や表情、しぐさなどを捉えて描く
 - 自分の心の中を見つめ、自分らしさや個性を描く
- など多様な題材設定が可能です。

授業の導入では、作家が描いた自画像や肖像画などを鑑賞し、構図や形、色彩などといった造形的な特徴から、描かれた人物の人物や性格などを読み取る学習がよく行われます。

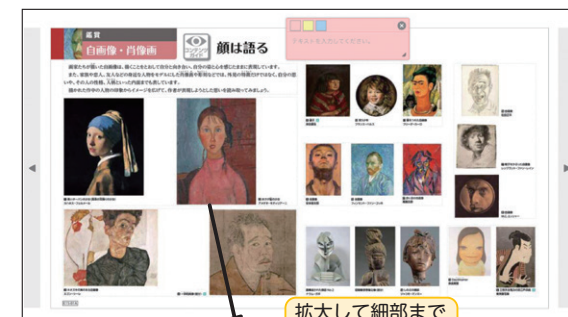


その際に作品の画像を電子黒板などを使って大きな画面で示し、細部までしっかり鑑賞できるようにすると効果的です。

生徒に「自分がその人物を描くなら、どのように描くだろうか」などと、表現と関わらせて考えさせることが大切です。

導入

ポーズやしぐさ・色彩などから人物や性格を読み取る



拡大して細部まで見ることができる



拡大して大きな画面で示し、細部まで鑑賞できる人物画の参考作品

【参考】教科書の人物を描く題材

- | | | |
|--------|-----|----------------------|
| 日本文教出版 | 1 | P.18・19 人間っておもしろい |
| | 2・3 | 下 P.8～11 今を生きる私へ |
| 光村図書 | 1 | P.16・17 人のしぐさを捉える |
| | 2・3 | P.44～47 今の自分、これからの自分 |
| 開隆堂出版 | 1 | p.16～19 人の姿・動き |
| | 2・3 | P.14～17 自分と向き合う |

裏面につづく

表現	人物を描く (P.48・49)	【肖像画】 安井曾太郎、デューラーなど5点
絵画	人物を描く (P.50・51)	【自画像】 松本竣介
鑑賞	顔は語る (P.132・133)	【自画像】 エゴン・シーレ、安井曾太郎、レンブラント、エッシャー、フリーダ・カーロ ゴッホ、松田正平、萬鐵五郎 【肖像画】 フェルメール、モディリアーニ、岸田劉生、奈良美智 など7点

これ以外にも、鑑賞のページにはマネやマティスなどが描いた人物画もあります。() のページは本の『美術資料』

人物を表現するにあたって、必ずしも写真のように描く必要はないのですが、顔の向きや目鼻の比率などもその人らしさを捉えることに繋がります。

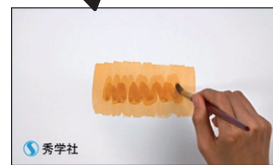


人柄や性格を表情として表す

展開

- 『デジタル版美術資料』をスムーズに使うために■
- 生徒が繰り返し見るページは、授業の最初に「ふせん①」を付けさせ、ふせん一覧②から選択させる。
- 個別指導で参照させる事の多いページは、ページ番号の一覧表を作成しておき、指導時にページ番号で呼び出す。

主題に応じて表現材料方法などを選択・工夫



まとめ



自分の描く人物（自画像の場合は自分）を、どのような色彩や構図、画材や技法で描くか考える。

画材や技法については、自由選択にしたり限定したり、生徒の実態に応じて様々だと思います。

『デジタル版美術資料』では、画材の使用方法や技法について、様々なコンテンツを準備していますので、電子黒板等に映して一斉指導で活用したり、タブレット PC などで個別に見させたりするなど、状況に応じた活用が可能です。

墨を使って水墨画で人物を描いたり、「漫画で表現する」のページを資料に、漫画表現で自画像を描いたりして取り組むこともできます。



背景などに「形や色をイメージした表現」（モダンテクニック）などを活用するのも効果的です。

授業のまとめは、生徒作品の相互鑑賞をすることも多いですが再度、導入時に鑑賞した作家の作品を見直したり、制作時に参照したページを振り返ることも大切です。

NEXT

次号「まなび! net」では、『デジタル版美術資料』を活用したデザインの授業例を掲載します。

秀学社の美術学習サポート



『デジタル版美術資料』
特設ページへはこちらから

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

まなび! net へのご意見や著者へのメッセージ、ご質問など、「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。

お問い合わせフォーム https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

ココから!

先生の声をお聞かせください。

